

平成 28 年度上半期 組織球症委員会活動報告

現在の委員：浅野 健（日本医科大学千葉北総病院：H31 年 12 月末まで）、森本 哲（自治医科大学：H31 年 12 月末まで）子川 和宏（茨城大学保健管理センター：H29 年 12 月末まで）

学会シンポジウム：第 58 回学術集会で LCH の多診療科シンポジウムを開催

診療ガイドライン：日本小児血液・がん学会編『小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン 2016 年版』に「ランゲルハンス細胞組織球症 LCH」が掲載された（担当：森本 哲、塩田曜子）

進行中のプロジェクト

- 1) 稀少組織球症調査（担当：浅野 健）
- 2) 2 歳未満で診断された皮膚病変を初発とする LCH の疫学調査（担当：森本 哲）
- 3) LCH 移植例の後方視的調査（担当：工藤寿子）
- 4) 若年性黄色肉芽腫症の調査（論文執筆中）（担当：前田美穂）
- 5) ①LCH と中枢性病変、②二次性 LCH（検討中課題）

組織球症委員会議事録

日時：2016 年 6 月 25 日 10 時～11 時

場所：名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）第 3 会議室

出席者：浅野 健、森本 哲、工藤 寿子（オブザーバー）、塩田 曜子（オブザーバー）

欠席者：子川 和宏

#現在の委員と委員会の存続について

石田也寸志、金兼弘和、鈴木信寛、前田美穂の 4 名の委員が H27 年 12 月末で退任し、現在の委員は、浅野 健、子川和宏、森本 哲の 3 名である。

小児血液・がん学会の理事会で疾患委員会の見直し行われた。本委員会は存続する見込みであるが、『JCCG の LCH/HLH 委員会とのプロジェクトのすみわけが不明瞭、従来の委員選任方法での継続が必須か疑問。学術・調査委員会での活動もあり得る』ということで、委員の公募は見送られた。

現在進行中のプロジェクトは進めていく。

#研究活動

1) **稀少組織球症（Rosai-Dorfman 病、Erdheim-Chester 病、ランゲルハンス肉腫）の調査**
浅野委員が研究責任者となり、研究計画書を作成し、研究審査委員会に提出し進めていく。

2) **2 歳未満で診断された皮膚病変を初発とする LCH の疫学調査**（担当：森本哲）
学会研究倫理審査委員会 1 回目審査を終了した。調査票による調査と、生検組織切片の免疫染色および BRAF 変異解析を行う研究計画書としていたが、両者を一つの研究として行うことには無理があるとの意見が多数を占めた。調査票を用いた研究と生検組織を用いた研究を別建てとして行う方針となった。

3) 「小児ランゲルハンス細胞組織球症に対する造血細胞移植の日本小児血液・がん学会会員施設に対する二次調査票による後方視的共同研究」（担当：工藤寿子(前委員)）

日本小児血液・がん学会の研究倫理審査委員会の承認が得られた。日本造血細胞移植学会と日本 LCH 研究会との共同研究。日本造血細胞移植学会の一元管理委員会の承認を得、同倫理委員会の承認待ち。近日中に承認される見込み。日本 LCH 研究会の承認は済み。委員会委員長施設（自治医大）の IRB 審査中。12 月の日本小児血液・がん学会の LCH のシンポジウムに向けて調査を進める。

4) 若年性黄色肉芽腫症の調査（担当：前田美穂(前委員)）

調査は終了し、学会発表も済（29th ANNUAL MEETING OF THE HISTIOCYTE SOCIETY）。論文執筆中で pending となっている。早急に投稿する。

文責：森本哲